

# 愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	専門演習IV		
担当者(Instructors)	新實 広記	配当年次(Dividend year)	4
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

## ■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

専門演習IIIまでに研究してきた自分のテーマについて整理して、まとめる。まとめるにあたって保育の現場でどのように生かすことができるのかということも大切に自分の考えをまとめる。まとめたものをどのように効果的に発表するかも考え資料の作成方法、展示方法なども併せて学んでもらう。

## ■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	演習形式で行う。ディスカッションおよびグループワークを取り入れ、子どもの造形、図画工作の意義を議論、研究する。

## ■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション (授業説明、注意事項)	<input type="checkbox"/>
第2回	面談1 (研究課題の設定)	面談を行い前期研究の整理と後期研究課題の設定を行う。	<input type="checkbox"/>
第3回	面談2 (研究課題の再設定)	面談を行い後期研究課題の最終設定を行う。	<input type="checkbox"/>
第4回	研究課題の資料収集 (図書)	各自の研究課題テーマに沿って図書から調査、資料収集を行う。	<input type="checkbox"/>
第5回	研究課題の資料収集 (論文)	各自の研究課題テーマに沿って論文から調査、資料収集を行う。	<input type="checkbox"/>
第6回	資料収集に関する面談	課題テーマに沿って行った調査の資料をもとに面談を行う。	<input type="checkbox"/>
第7回	作品試作もしくは論文の計画	課題テーマに沿って論文の計画や作品の試作を行う。	<input type="checkbox"/>
第8回	中間発表	各自が研究課題テーマに沿って行った調査、研究の進捗状況を中間発表する。	<input type="checkbox"/>
第9回	中間発表後の面談	中間発表後の面談を行い論文の作成や作品製作の再検討を行う。	<input type="checkbox"/>
第10回	作品製作もしくは論文の作成	課題テーマに沿って研究を進め論文の作成や作品製作を行う。	<input type="checkbox"/>
第11回	作品製作もしくは論文の作成と面談	課題テーマに沿って研究を進め、面談を交えながら論文の作成や作品製作を行う。	<input type="checkbox"/>
第12回	事前発表練習	各自が研究課題テーマに沿って行った研究成果を事前発表し練習する。	<input type="checkbox"/>
第13回	作品製作もしくは論文の概要作成	各自の研究課題、テーマに沿って調査、研究を行ってきた内容を概要にまとめる。	<input type="checkbox"/>
第14回	作品製作もしくは論文の概要完成	各自の研究課題、テーマに沿って調査、研究を行ってきた内容を概要にまとめ完成する。	<input type="checkbox"/>
第15回	研究発表	これまでの研究の成果を論文もしくは作品で発表し、質疑応答に答える。	<input type="checkbox"/>

## ■授業時間外学習 (予習・復習) の内容(Preparation/review details)

これまでの調査・研究の成果をレポートもしくは制作物で示せるように準備しておく。(2時間) 授業内の面談を通して気づいた新たな研究課題を再調査する。(2時間)

## ■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

これまでの研究の成果を論文もしくは作品で発表し、質疑応答に答える。

## ■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019子ども発達DP1	自らの研究課題を整理して調査、実践研究に取り組み、保育、教育現場に具体的に生かすことができるか。
思考力・判断力・表現力	◆ 2019子ども発達DP2	保育、教育の質を高めるために創造的な調査、実践研究が継続してできるか。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	現代の保育、教育現場における様々な課題と向き合い、調査研究を通して改善策を具体的に示すことができるか。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			100%	
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)				
演習で取り組んだ研究をプレゼン発表する。				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて授業中に指示する	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて授業中に指示する	
2		
3		
4		
5		